

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202147		
法人名	有限会社ウェル・ビーイング		
事業所名	グループホーム とらいあんぐるJOY ぽぷら		
所在地	札幌市北区新琴似9条1丁目2番17号		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170202147-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の意見を尊重し自己決定を促し、実現に向け働きかけます。 ・利用者様、職員間の言葉使いは相手を尊重した言葉遣いをしています。 ・コロナ禍で外出機会が少ない為、室内で楽しめる様努めています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地下鉄麻生駅とJR新琴似駅から徒歩数分の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には駅その他、コンビニエンスストア、ドラッグストア、体育館など店舗や施設が揃っており、利便性が高い。共用空間や居室は家庭的で、事務所カウンターが中央にあり、居間に畳のスペースもあって、居心地がよい。壁に季節の装飾や利用者の習字作品などを掲示し、親しみやすい雰囲気としている。管理者を中心に職員全体で利用者本位に生活できるよう支援しており、家族への対応も丁寧である。感染症の流行により利用者と家族の直接面談が難しい中、テレビ電話による面会や、玄関でも窓越しの面会を実現している。定期的な会議や内部研修を通じて職員同士のコミュニケーションを良好に保っている。運営推進会議は現在、書面会議としているものの、参加メンバーからテーマに沿った意見を募り、充実した内容となっている。ケアマネジメントの面では、計画見直しにあたって利用者ごとの担当者がモニタリング記録表を作成し、カンファレンスで意見を出し合っており、計画を更新している。計画目標に沿った日々の記録も実施されている。医療面では、内科による定期的な往診があり、週1回の訪問看護も受けて利用者の健康状態を適切に把握している。家庭的な環境のもと、安心して自分らしく生活できるグループホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をホーム内の目に付くところに掲示している。改めて確認する機会は少ないが、日々のケアの中で実践できている。	基本理念とケア理念があり、ケア理念の中に「社会とつながって暮らす」という文言を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を共用部分の見やすい場所に掲示しているが、共有に向けた取り組みは十分といえない。	基本理念、ケア理念の文言や意味について職員間で定期的に確認する機会を設けることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状、利用者様が町内行事に参加する事は難しく、職員も中々参加できてない。コロナウイルスの流行前は焼肉会や運営推進会議・避難訓練に参加して頂いていたが、R2年度以降は直接の面会禁止・外出禁止の為、交流は出来ていない。	感染症流行前は、事業所で行う焼肉会に地域の方が参加したり、同法人が運営する児童デイサービスの利用者や交流していた。現在は地域との交流ができていないが、感染症収束後に再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は書面にて行っている。テーマを決めアンケートや意見を頂き、議事録を郵送して認知症の理解と支援方法を伝えている。空室の問い合わせや相談があった時は情報を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様へのサービス状況等の報告書と意見書を郵送し、頂いた意見・評価等は会議録の掲示や申し送りにてサービス向上に活かしている。	現在は文書による2か月ごとの開催で、地域包括支援センター、町内会役員、利用者家族がメンバーとなり、各回のテーマの資料を送付し、多くの意見をj得ている。今後は構成メンバーや主要テーマについて議事録に明記する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議の報告書・意見書・会議録を郵送し、情報交換している。空室の問い合わせが有った際には情報を提供している。保険年金課や保護課と連絡を取り情報を共有している。	運営推進会議で地域包括支援センターから意見をj得ている。担当課とは必要に応じてメールや書面でやり取りしている。手続き等の問い合わせは本社経由で行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針に基づき毎月の身体拘束廃止会議と三か月毎の身体的拘束等適正化対策検討委員会を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。防犯上の理由から昼夜施錠をしているが、身体拘束廃止指針に明記している。内部研修は年3回行い、外部研修は参加していなかったが、令和3年度になりリモートの研修への参加が始まっている。現在身体拘束されている方は居ない。	事故防止の観点から短時間の拘束(車いすの腰ベルト使用)を行うことがあるが、解除に向けて話し合っている。年4回の委員会を開催し、禁止の対象となる具体的な行為を示した指針に沿って年3回の身体拘束および虐待に関する内部研修を行っている。玄関は日中も施錠しているが、外出希望があれば同行し、利用者が閉塞感を感じないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、内部研修を行い、ユニット会議や申し送りで話し合い、虐待に繋がるような行為や声掛けが有った際には管理者や職員間で注意しあい防止に取り組んでいる。		

とらいあぐるJOY

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	感染症影響もあり外部研修へ参加することは難しく、学ぶ機会は少なくなっている。内部研修で補えるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と、計画作成担当者または法人本部の担当者の2名以上の立ち会いのもと、ご家族様に十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのご家族様からの意見は申し送り・本社会議・運営推進会議などで運営に反映させている。また、意見箱を設置している。	運営推進会議で文書により家族からテーマ以外の意見も収集している。また、電話等で家族から得られた意見を申し送りノートで共有している。毎月、利用者の様子や写真を載せた通信を家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議や申し送りでの意見を、管理者が介護事業部会議・本社会議にて反映させている。また職員から急ぎの意見があった際にはその都度運営側に伝えている。	月1回のユニット会議で職員同士、活発に意見交換している。職員の意見を参考に、利用者のニーズに合わせた設備の改善を検討している。職員は行事や食材発注、通信、室内装飾などの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等の諸手当、主任や副主任等の能力に有った役職への就任等で職員の努力を評価している。また残業をしない・研修は勤務時間内に参加・有休休暇の消化等、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症の流行とリモート研修はパソコンのスキルが必要な為、外部研修を受講する事は難しかったが内部研修にてケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市・北区等の管理者連絡会はメールや書面で行い交流が出来たが、職員は、同業者との交流は難しい状況だった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様・ソーシャルワーカーからこれからの希望や今までの情報などを伺いながら、アセスメントを行い精神的・身体的な状態を把握し不安を取り除き安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学後面談を行っている。入居決定後も不安や要望について伺い、十分に話し合いながら関係づくりに努めている。センター方式を利用し、過去の状況もお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様・入院先や前入所先からの情報をもとにケアプランを作成している。入居後1か月で見直し、ご本人様が必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の体操の号令をかけて頂く・タオルたみなど利用者様が無理なく行える範囲のお手伝いを通して、職員と仲間意識を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者様の様子を電話や通信・ケアプラン郵送時等にご家族様に伝えたり相談している。ご家族様が望んでいる支援をお聞きし、職員間で情報を共有して信頼関係を築いている。また直接の面会は出来ていないがガラス越しでの面会やテレビ電話等で利用者様の様子を確認して頂きご家族様も安心できるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの流行の為ご家族様や知人との直接の面会は出来ていないが、玄関でガラス越しでの面会・テレビ電話等で支援している。現状ご家族様との外出は通院など限られている。	感染症の流行により、友人や知人との直接的な関わりはできなくなっているが、知人から手紙が来る利用者もいる。以前できていた馴染みの場所への外出について、感染症収束後に再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士での談笑等利用者様同士の関係を大切にし、合同レクリエーション・体操に気持ち良く参加して頂けるよう努めているが、現在は感染症対策の為アクリル板で区切る等利用者様同士の距離は離している。状況によっては席替えをする等工夫し常にユニット内で良好な関係が築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には、次の入所先の相談に乗る等サービスの利用が終わってもご家族様の思いを受け止め、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から希望を伺うだけでなく、日々の言動や表情からも状態を把握し、意向に沿えるように努めている。困難な場合にはご家族様と相談したり職員間で情報を共有し本人本位のケアを提供できるよう検討している。	言葉で思いや意向を表せる利用者は半分程度で、難しい利用者は表情やしぐさから把握している。生活歴等を記した入居者情報記入表を定期更新しているが、利用開始時に作成するセンター方式のアセスメントシートの追記や更新は行っていない。	センター方式「私の暮らし方シート(B-3)」の定期的な追記や見直しを行い、日々のケアに活かすことを期待したい。B-3シートの更新が難しい場合は、入居者情報記入表の下段欄を活用して同様の情報を記載・更新することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様からの情報はセンター方式を利用し、アセスメントを行い把握できるよう努めている。また入院先や入所先からも情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を見逃さず、また介護記録・ケアプラン実施表・申し送り・申し送りノート・月1回のユニット会議を通じて職員同士情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに基づいたカンファレンス・月1回のユニット会議を行い、職員の意見・アイデアを反映し、また運営推進会議の際の意見書等でご家族様の意見を伺い介護計画を作成し3か月毎に更新している。	モニタリング記録表をもとにカンファレンスで意見交換し、介護計画を3か月ごとに更新している。ケアプラン実施表に目標項目の実施状況を記録し、日々の介護記録に目標項目に関する支援内容、気づきなどを記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録とケアプラン実施表を作成し、申し送りやユニット会議等を通して、職員間で情報共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに応じて椅子の変更や歩行器・車イスの使用、食器や食事形態の変更等している。ご家族様の対応が難しい場合には、職員が通院対応したりケアプランを郵送するなど、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩行困難な利用者様が多く、また現在は、感染症予防の為、町内行事等への参加は困難で、公共施設の利用も難しい状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回訪問看護師・2週間に1回の訪問診療を受けて頂き、状態の変化があれば往診医に指示を仰ぎ適切な医療が受けられるよう対応をしている。通院が必要な方でご家族様が同行できない場合は、職員が同行しその情報は往診医に伝えている。希望があれば訪問歯科を受診して頂いている。	全員が提携医療機関(内科)による往診を受けている。皮膚科、整形外科などの通院は家族または事業所が通院を支援している。受診内容を個人ごとの受診記録に記載し、必要に応じて家族に知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理を行い、同時に利用者様の健康相談も行っている。排便や皮膚の状態等の助言を頂き、その情報は申し送りなどで共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入退院時にはソーシャルワーカー・医師・病棟看護師と連絡を取り合い、情報交換している。管理者や本部担当者は普段から挨拶回りなどを通じて関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応指針」を作成し、入居時にご本人様とご家族様に説明している。主治医の判断のもと、ご家族様と状況の変化や方針を話し合い情報共有に努めている。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を本人・家族に示し、同意書に署名捺印を得ている。重度化した場合は協力医および家族と相談の上で入院となる場合がほとんどで、現在は事業所での看取りを行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年3回ホーム内防災訓練を行い、実践に備えている。また状況の変化に伴い、その都度緊急マニュアル(災害時・救急搬送時・スタッフの役割分担)や緊急連絡網を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網には町内会の方の連絡先も記載し一時避難所を提供して頂く等の協力体制を築いている。感染症流行の為、地域の方の避難訓練への参加は出来ていない。火災時避難訓練後に水害時の避難方法等の研修を行っている。	年3回の昼夜を想定した火災や地震の避難訓練を行っており、感染症収束後の訓練では消防や地域の参加を再開する方針としている。最近では職員の救急救命訓練を行っていない。災害時に必要な水や食料等を用意している。	救急救命訓練の計画的な受講および、感染症流行のため受講が難しい場合は事業所内のできる範囲の訓練実施を期待したい。地震や水害のマニュアルを整備し、ケア場面に応じた具体的な対応について話し合いを行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇等のマニュアルを作成、研修やスタッフ間の声掛けを通じて人格や自尊心を傷つけないように対応し、プライバシーや個人情報を損ねないように努めている。	利用者は「さん」づけで呼びかけている。年1回接遇研修を行い、気になる言葉かけや対応があればその都度注意している。記録類は適切に保管し、申し送りにインシヤルや部屋番号で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	疑問形で問いかけるなど話を伺う等意思確認を行い、自己決定・解決が出来るよう支援している。困難な場合には表情から判断したりご家族様にも協力して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間・入浴等その人らしい暮らしが出来るように、体調や生活リズムを考慮し、声掛け・見守りを行い支援しているが介護度が重い方については難しい面がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある服装を取り入れ、可能な方にはご自分でその日の服装を選んで頂いている。季節の変わり目にはご家族様の協力も得て、衣替えを行っている。希望によって訪問理美容も利用して頂いている。		

とらいあんぐるJOY

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用しているが食べられない・禁止等の食材が有る場合には、他の食材を使うなど対応している。誕生日や行事の際には変化を付けている。利用者様と職員と一緒に食事を摂っているが、後片付け・食器拭き等を一緒に行うのは難しくなっている。	配食サービス会社の献立で、温めて提供している。誕生日は、ちらし寿司や煮魚、赤飯や栗ご飯など本人の好きな献立にしている。ペランダでジンギスカンの焼肉をしたり、行事に合わせて生ちらし寿司などの出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、全職員が把握した上で支援している。必要に応じて食べやすい形態に変える・病状に合った食事量にする・栄養補助食品の提供をする等の利用者様一人ひとりの状態に合わせた食事を提供できるよう対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれにあった支援方法で見守り・声掛け・介助にて行っている。義歯の方は夜間お預かりし、洗浄剤を使用している。必要に応じて訪問歯科を受診して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の訴え時、またはアセスメントシートにより個別の排泄パターンを把握し声掛けする等、情報を共有した上で自立に向けた支援をしている。	全員の排泄状況を個人記録に記入している。自立している利用者は半数ほどおり、日中は全員トイレでの排泄を支援している。退院後に適切なトイレ誘導でおむつからリハビリパンツに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂って頂けるよう声掛けしている。また体操や、乳酸菌飲料・牛乳やゼリーの提供している。医師や訪問看護師と相談し下剤を使用している方や、腹部マッサージで排便を促している方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望や体調に合わせ無理なく対応している。基本的には午後から入浴しているが、状況に応じて午前入浴も対応している。入浴剤を使用し楽しめるように努めている。	毎日入浴が可能で、午後の時間帯で一人週2回の入浴を支援している。入浴を拒む場合は話題を変えてさりげなく誘ったり、日にちを変更している。入浴剤を使用し、職員と会話や歌を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調・気持ちを感じ取り臥床して頂いたり、部屋の明るさ・温湿度・寝具に気を配り安眠出来るような環境を整えて支援している。眠れない期間が長く続く方には、医師に相談し眠剤を処方して頂くことも検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤について理解出来るよう努め、変更があった場合には詳細を個人記録ファイルに綴るなど職員に周知している。粉碎・砕くなどその方に合った飲み方を支援し、服薬後の体調変化を見守り・確認・記録している。マニュアルを作成し、間違いなく服薬できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク・家事・趣味・お好きなジャンルのテレビ番組の観賞等、役割を持ったり気分転換が出来るよう支援している。外出が難しい為、スイーツやフルーツの日等「食」で楽しめるような工夫をしている。		

とらいあんぐるJOY

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぽぶら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出や季節に応じた外出行事は難しく、外気浴をして頂いている。通院時には外の景色を楽しんで頂いている。	感染症の流行により外出はほとんどできないが、ベランダや庭先で日光浴をしたり、近隣の桜を見ながら写真を撮ったりしている。受診時に車窓から景色を楽しむこともある。感染症の収束状況を見ながら、近隣の散歩や外出行事も取り入れていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい為ホームで預かり、希望に応じて家族や施設で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けることが難しい状態の利用者様が多いが、家族や知人から電話があった時は通話の支援している。携帯を所有されている方や知人からハガキが届く方には関係が続くよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアに季節や行事に応じた飾り付けをする・レクの写真を飾る等で生活感や季節感を感じて頂いている。また、食事の時は音楽を流すなど居心地の良い空間づくりに努めている。掃除は毎日行い冬は居室に加湿器を設置したり濡れたバスタオルを干す等湿度にも気を付けている。感染症予防の為消毒液やアクリル板・二酸化炭素測定機の設置も行っている。温暖化を踏まえエアコンの設置も検討している。	居間や食堂は、大きな窓に面した明るい造りで畳敷きのスペースもある。ソファや椅子を居間や窓際に配置して、好きな場所でゆっくり寛ぐことができるように配慮している。壁には利用者の書初め作品や写真、児童デイサービスの利用者からのプレゼントなども飾られている。天井からは紅葉のつるし飾りもあり、室内でも季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で全員での食事や談笑もして頂きながら、空いた時間には居室ではテレビを見る等、一人一人の時間も楽しめるよう工夫している。車いすの利用者様が増え、自由に動くことは難しくなっているが、本人の希望に合わせ移動の支援をしている。必要に応じて席替えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から馴染みの家具や衣類・写真等を持参して頂き、ご本人にとって居心地良く過ごせる環境づくりに努めている。また誕生日・敬老の日等のご家族様や職員からのメッセージカードやプレゼントも置いて頂いている。	各居室にはベッドや吊戸棚、洋服かけポールが備え付けられている。使い慣れたタンスや椅子、テレビやソファなどを持ち込んでいる。自分の作品や誕生日カード、好きな小物類を飾り、落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー化しており歩行器や車イスが使用しやすい空間を作り、居室・トイレ・洗面所等の案内を目線の高さにしてわかりやすくしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202147		
法人名	有限会社ウェル・ビーイング		
事業所名	グループホーム とらいあんぐるJOY しらかば		
所在地	札幌市北区新琴似9条1丁目2番17号		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が安心して自分らしく穏やかに過ごして頂いています。 ・利用者様の意思を尊重したサービスを提供致します。 ・利用者様・スタッフ間の言葉使いは相手を尊重した言葉使いにしています。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0170202147-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも確認ができるよう基本理念、ケア理念を廊下の目につく場所に掲示し、都度確認、実践しながらスタッフ間で理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防のため、毎年行っていた焼肉会等の直接的な交流は出来ていないが、運営推進会議を书面で行うことで地域とのつながりを維持できるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書面で行っている運営推進会議の中で、日常の様子や介護についての資料を回覧していただき、認知症への理解や支援方法をお伝えできるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面で資料やアンケートを送付し、意見交換をしながら実際の支援につなげていくことでサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり密な連絡はとれていないが、書面での運営推進会議に参加していただき、意見交換を行うことで協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束11項目をスタッフルームに掲示したり、内部研修を年2回実施している。現在、家族様に説明を行ったうえで極めて限定的な時に限り身体拘束を行っているため、毎月の身体拘束廃止会議や三ヶ月に1回の身体的拘束等適正化対策検討委員会で拘束廃止、拘束時間の削減ができないか話し合っている。玄関は防犯のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リモートでの外部研修や内部研修、ユニット会議や身体拘束廃止会議等で話し合うことで防止に努めている。		

とらいあぐるJOY

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修には参加できていないが、内部研修を行いそれらの報告書を回覧することで活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と、計画作成担当者または法人本部の担当者の2名以上の立ち会いのもと、ご家族様に十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様への連絡時や面会時、病院対応時等に簡単な聞き取りを行ったり、運営推進会議内で意見を伺い、伺った意見はユニット会議や申し送り時、運営推進会議を活用して情報共有し意見反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部担当者、管理者との面談や、毎月のユニット会議や業務中にその都度提案を聞き、定時報告や介護事業部会議・本社会議で報告し反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得やスキルアップによる主任、副主任への就任など、給与面も含めて向上心が持てるよう環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には参加できていないが、代表・管理者は職員一人ひとりの力量を把握し、その職員に適した業務を振り分け、働きながらトレーニングができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートでの研修で同業者と交流し、そこで学んだ事を職員間で情報共有しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や見学の際にご本人様や家族様と話をしながら不安や要望を伺い、少しでも安心していただけるような関係づくりに努めている。また、入所後も継続的に話を伺いセンター方式を活用しながら安心して暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談や見学の際に家族様と様々な会話をしながら不安や要望を伺い、少しでも安心していただけるような関係づくりに努めている。また、入居後にも面会時や電話連絡時に要望等を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や家族様からの希望や、ソーシャルワーカーからの情報を元に必要としているサービスを総合的に勘案し、カンファレンスを行いその提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意思を尊重し敬いながら生活を共にし、可能な時には一緒に家事を行うなど、お互いを支えあいながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に情報を共有し、共に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため外出は出来ないが、玄関先での面会や電話、テレビ電話は気軽に行えるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前、午後のレクの時間、食後のコーヒーやおやつの時間を作り利用者様同士の関係に配慮しながら関わりが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了時には、次の入居先や転院先等の相談に乗り、支援に努めている。また、必要な時には情報提供を行うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人、ご家族様等から直接希望や意向を伺ったり、日常の会話の中から汲み取れるよう把握に努めている。困難な場合にはカンファレンスや申し送り時に検討し、ご本人の意向を汲み取れるよう把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人やご家族様等に直接話を伺ったり、前の入所先のソーシャルワーカー等に話を伺い、これまでの生活歴やサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日頃の過ごし方を観察したり、介護記録を回覧することで1日の過ごし方や有する能力の把握に努めている。毎日のバイタルチェックや訪問看護師や往診医に診察していただく事で心身の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当のスタッフが利用者様のモニタリングを行い、そのモニタリングをもとに計画作成者がカンファレンスを開催し、そこで意見を出し合いながら現在のニーズに則したケアプランを作成している。家族様にも意見を伺い、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの介護記録やケアプラン実施表を毎日記入し、実情を把握しながらスタッフ間で情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに適した食事の形態にしたり、下肢筋力を維持するための運動を行ったり、浮腫みを解消するための足の挙上を行う等、その時の健康状態や身体機能や認知機能に応じて柔軟に対応しサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染予防のためあまり活用できていないが、災害時には一時避難場所を提供して頂く等安心安全に暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者様、ご家族様に説明、同意をしていただき内科医に二週に一回往診していただいている。また、利用者様に体調に変化がある時には往診医に指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週一回の健康チェックに来られた際に情報交換、相談を行い、個々の利用者様が適切な治療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際には、ご家族様や病院と密に連絡を取り合い情報交換を行っている。また、病院のソーシャルワーカーや担当看護師とも情報交換を行いながら相談にのっていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の対応指針について説明し、終末期にはご家族様、医療機関と話し合いながら可能な限り意向に沿えるように支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、適切に対応できるようにマニュアルを作成している。不定期ではあるものの、普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行い、水害、地震、火災を想定した訓練、夜間帯を想定した訓練、研修を全職員が順番に行っている。コロナ禍以前は地域の方にも訓練に参加していただき、実際の災害時には一時避難場所を提供していただく等協力していただいている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りは個人名を出さずイニシャル、排泄の事を直接的な言葉で話さない等、利用者様一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや尊厳を損ねない声掛け、対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりの中で思いや希望が自然に訴えられるような環境、自己決定を促すような問いかけ等、環境作りに努めている。また、上手く表現できない方にはスタッフが思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの過ごし方やペースを尊重し、体操やレクに参加したくない時には休んでいただいたり、入浴をしたくない時には別日に変更する等、可能な限り希望に沿った過ごし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類の選択を出来る入居者様にはご自身、もしくはスタッフと一緒に衣類等を選んでいただいている。選択が難しい方にはスタッフが提案しながら衣類を選んでいただいている。		

とらいあんぐるJOY

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染防止の為現在は一緒に食事をしていないが、食事の盛り付けや食後の食器洗いなど、可能な事は職員と一緒に行っていただいている。パンの日には好みのパンを伺って購入したり、誕生日には食べたいものを伺い提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの状態を把握して、適切な食事量や栄養が摂取できるよう食事を提供している。食事量、水分量を毎回チェックし食事や水分の進まない方には声掛けや提供方法を工夫する等支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりに合った方法で口腔ケアを行っている。また、必要な時には訪問歯科の口腔ケアを受けていただき、歯科医より口腔ケアの方法についてアドバイスをいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄をした時間や状態を記録し、排泄パターンを把握することで定期的にトイレ誘導を行ったり、間隔が空いている入居者様へトイレ使用を促す等、支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師や往診医に相談しながら、一人ひとり個別に下剤の調整をしたり、自然な排便ができるよう飲み物や体操を工夫するなど支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がない場合日時はこちらで決めているが、前もって希望がある際には希望に沿えるよう調整を行っている。また、入浴剤を使用したり、入浴中に談笑をする事で入浴に楽しみが持てる様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者様の体調や希望に応じて、居室で臥床し休んでいただいている。夜間帯は安心して眠れるよう馴染みの寝具や寝間着を着用していただいている。どうしても眠れない方には往診医と相談し眠剤を処方していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し、症状の変化にも注意して薬を提供している。服薬の際には一人ひとりにあった服薬方法で服薬していただいている。薬の変更があった場合には周知できるよう送りノートに記載するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウィルス感染防止のため、外出は行っていないが、ベランダへ出て外気浴をしていただく等気分転換を行っている。歌や家事や塗り絵など、利用者様の得意なことを日々の活動に取り入れている。		

とらいあんぐるJOY

自己評価	外部評価	項目	自己評価(しらかば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染防止のため買い物や外出行事は行えていないが、ベランダに出て外気浴を行う等極力外気に触れる事ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を管理しているが、利用者様一人ひとりの必要な物や希望に応じて購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。ご家族様から電話やテレビ電話が来ることがあるのでやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて掲示物を変更したり、利用者様一人ひとりの表札を作成することで季節感や生活感を出している。冷暖房、加湿器を使用し室温、湿度を調節し過ごしやすい空間作りに努めている。また、車椅子や歩行器での移動がスムーズに行えるような空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアテーブルやフロアソファに座られ利用者様同士やスタッフと談笑されている。独りになりたい時には居室に戻って過ごせる様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂き、心地良く過ごせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内をバリアフリー化しており、安全かつ自立した生活が出来る様工夫している。また、各居室に表札を付けたり、トイレや洗面所などの共有部分をわかりやすく表示している。		

目標達成計画

事業所名 とらいあんぐるJOY

作成日：令和 3年 12月 12日

市町村受理日：令和 3年 12月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I-1	基本理念、ケア理念の文言や意味について職員間で定期的に確認する機会を設ける事を期待したい。	ケア理念を念頭に置いたケアが出来る様にする。	申し送り時やユニット会議などでケア理念を唱和し意識づけをしたり、スタッフ一人ひとりに理念を共有、実践していくためにどのような取り組みが必要かアンケートを行い、それを基に理念についての内容の理解を深めていく。	6か月
2	Ⅲ-23	センター方式「私の暮らし方シート(B-3)」の定期的な追記や見直しを行い、日々のケアに活かすことを期待したい。B-3シートの更新が難しい場合は、入居者情報記入表の下段欄を活用して同様の情報を記載・更新する事を期待したい。	B-3シートを活用し適切なケアが出来る様にする。	各利用者担当職員が3か月ごとに変化をB-3シートに記入する。また、介護記録にもB-3シートを綴り、気付いたことがあった時気軽に記入を出来るようにしていく。	6か月
3	Ⅲ-35	救急救命訓練の計画的な受講及び、感染症流行の為受講が難しい場合は事業所内でできる範囲の訓練実施を期待したい。地震や水害のマニュアルを整備し、ケア場面に応じた具体的な対応について話し合いを行う事を期待したい。	想定されるあらゆる災害の具体的な訓練実施やマニュアルの整備。	防火管理者、救命訓練経験者が中心となって現在のマニュアルを認知症対応型グループホームの特性に合わせた内容に再整備するとともに、定期的な避難訓練時に具体的な対応についての内部研修を行う。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。